

事業内容：防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業  
 学校防災アドバイザー活用事業の実施

題名：命の大切さを考える防災教育公開事業（地震と津波）  
 －災害時に自主的に行動できる生徒の育成－

所属・電話番号：袖ヶ浦市立長浦中学校・0438-62-2834

校長 石橋 健彦

### 1 実施事業

- (1) 防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業の実施
- (2) 学校防災アドバイザー活用事業の実施

### 2 事業概要

- (1) 地震・津波を想定した小中合同避難訓練の実施
- (2) 学校防災アドバイザーによる防災教育講演会や防災教育授業の実施
- (3) 防災教育授業の工夫・改善・展開
- (4) 地域住民との合同防災訓練の実施

### 3 実施概要

実施時期	計画事項	参加者
4月	○第1回担当者連絡会議	学校代表・自治会・市教育委員会・NPO ゆかいな仲間たち
8月	○第2回担当者連絡会議	学校代表・自治会・南房総教育事務所・市教育委員会・NPO ゆかいな仲間たち
	○防災体験活	教職員・自治会・

	動職員研修	NPO ゆかいな仲間たち
9月	○第3回担当者連絡会議	学校代表・自治会・市教育委員会・NPO ゆかいな仲間たち
	○小中合同津波・地震避難訓練	長浦小・中全校児童生徒
	○防災教育集会	教職員・生徒・南房総教育事務所・市教育委員会
10月	○第4回担当者連絡会議	学校・自治会・市教育委員会市危機管理課・NPO ゆかいな仲間たち・袖ヶ浦市消防署
	○防災教育授業	教職員・生徒・木更津工業高等専門学校
11月	○防災教育公開授業	教職員・生徒・自治会・市教育委員会
	○地域住民との合同防災訓練	会・県教育委員会・自治会・市教育委員会

#### 4 担当者連絡会議

	氏名	所属及び役職
1	岡本英樹	南房総教育事務所指導室指導主事
2	猪野智明	袖ヶ浦市教育委員会学校教育課指導主事
3	花澤 司	袖ヶ浦市役所危機管理課副主査
4	森岡かおり	長浦駅前自治連合会会長
5	長沼 眞	長浦駅前自治連合会会長代理
6	大野裕隆	長浦中学校PTA会長
7	白尾克伸	N P O 法人ゆかいな仲間たち理事長
8	石橋健彦	長浦中学校校長
9	板垣秀明	長浦中学校教頭
10	伊藤弘巳	長浦中学校研究主任
11	川名康弘	長浦中学校安全主任

#### 5 具体的な取組

##### (1) 地震・津波想定避難訓練

9月4日(水) 11:15～12:15

本校は、海が近く海拔が8.3mに位置し、津波被害に対する懸念もある。津波警報を想定し、第三次避難を海拔23mの長浦小学校にて行った。小学校まで300m程の距離であったが、横断歩道が2カ所あり、交通事故に対する注意が必要であった。訓練実施時には、職員の配置については、検討が必要なが判明し、直ちに改善策を検討した。



<地震・津波想定避難訓練>

##### (2) 防災教育集会

9月19日(木) 13:00～14:00

講師：「大槌町の子どもを支える会」

代表 志村 淳子 氏

被災者、被災地への理解を深めるため東日本大震災で多くの死傷者を出した岩手県大槌町の被災の様子や親を失っても必死に生活している小中学生の書いた作文を教師が読み聞かせた。

##### (3) 自然災害調べ学習

9月30日(月)～10月4日(金)

講師：袖ヶ浦市学校図書館

支援センター 中村 伸子 氏

防災について考えるには、災害を知ることが必要という考えから、1年～3年の全校生徒が自然災害をテーマに「地震災害」「津波災害」「台風災害」「土砂災害」「集中豪雨災害」「火山噴火災害」について調べたことをワンペーパーでまとめ、展示した。一連の防災学習の動機付けとして特に効果があった学習活動であった。

##### (4) 防災教育授業

10月31日(木) 13:00～15:00

講師：木更津工業高等専門学校

環境都市工学科 鬼塚信弘准教授

「地震と液状化現象」

木更津工業高等専門学校の学生と中学生（1年生）がいくつかのグループをつくり、「地震や津波発生メカニズム」や「地震に強い建築物の構造」について学習した後、「液状化現象」の実験等を行った。



<液状化現象の実験>

#### （5）防災教育公開授業

1 1月6日（水）14:00～14:50

1・2年生の6学級にて、「地震と津波」災害の恐ろしさを事前の調べ学習から得た知識をもとに命の大切さを考え、命を守るためにどのような取組ができるかを学習した。阪神・淡路大震災や東日本大震災から復興していく人々の取組や一生懸命に生きていく子どもたちの営みを通して、自助から共助、公助へとつながる防災、減災の意識を高めることができた。以下が各クラスの授業の概略である。

○1年1組 学級活動「幸せを運べるように」 阪神・淡路大震災から生まれた曲「幸せを運べるように」の合唱をとおして、歌詞に込められた思いや願いを感じ取っ

た。

○1年2組 学級活動「そのときあなたは どうする」 クロスロードを活用し、災害時の判断の重要性を学習した。

○1年3組 道徳「震災に学ぶ」 震災の恐ろしさを伝え続ける写真家の松原さんの生き方から困難に負けずに信念に基づいて行動する強い気持ちの大切さを学習した。

○2年1組 学級活動「非常用持ち出し袋の中身を考えよう」 被災地の被災者の話や同じ中学生の話の聞いたり、避難所生活のDVDを視聴し、非常用持ち出し袋の必要性を理解し、中身を考えた。

○2年2組 道徳「みんなの命を守る」 「いなむらの火」から津波災害の恐ろしさを理解し、自分の命だけでなく、みんなの命を守るために行動を起こすことの大切さを学習した。



<2年2組の授業>

○2年3組 総合的な学習の時間「災害について備えよう～プレゼンテーション」 日本で起こる自然災害をグループごとに調べ、発表し、災害に対して的確な判断力、安全を確保する行動力の在り方を学習した。



<調べ学習の展示>

#### (6) 防災教育講演会

11月6日(水) 15:20～16:20

学校防災アドバイザー：元福島県浪江町  
浪江町立浪江小学校長 半谷一芳氏

演題「東日本大震災と原子力発電所の  
事故を体験して」

教職員、PTA、地域住民の研修の場として防災教育講演会を開催した。東日本大震災の時に校長であった半谷氏の体験談を聞いた。震度6強の地震直後の避難誘導や避難所運営の経験を踏まえて、避難経路の確認、避難訓練がいかに重要であるかを再確認することができた。

#### (7) 地域住民と合同防災訓練

11月16日(土) 9:00～12:20

学校防災アドバイザーであるNPO法人「ゆかいな仲間たち」の方々の協力の下、地域と学校が合同で地震対応の避難訓練と併せて防災体験活動や避難所設営訓練を行った。地域の避難は防災無線の発令により始まり、二次避難所の学校に町会毎に集合した。今回の避難訓練により、地域住民に本校の避難訓練についてある程度理解を得ることができた。

体験活動の内容は以下の通りである。  
炊き出し給食、救急搬送訓練、放水訓練、段ボールの腰掛け、新聞紙を使ったスリッパの作成、ロープワーク、ビニルシートを使ったテントの作成、廃油を使ったランプの作成。

NPO法人「ゆかいな仲間たち」の方々に事前に指導を受けた3年生が教わった技能を地域住民に伝えることができた。特に炊き出しでは専用のビニール袋を使用し、大量の炊飯を効率よく実施することができた。各体験活動において災害時における中学生の役割の重要性を教師も地域住民も再認識できた。



<合同避難訓練>



<段ボールで椅子を制作>



<廃油を使ってランプを制作>

## 6 成果と課題

### 【 成 果 】

- (1) 生徒の「命の大切さ」や防災・減災についての意識が高まった。

調べ学習を用いたことで、東日本大地震や津波の恐ろしさ、被災地の現状や復興の様子に対する理解が深まり、より主体的な活動となった。「命の大切さ」を考える良い機会となった。

- (2) 地域・保護者と学校が連携した避難訓練の定着が図れた。

地域・保護者と学校が連携した避難訓練を実施することで、職員が連携して組織的な行動がとれ、現実に近い対応ができた。さらに、参加者全員が、日頃の避難訓練の大切さをより一層深く認識することができた。また、防災事業担当者会議を開くことで、地域、関係機関との連携が密になり、共助の意識の高まりを感じることもできた。

- (3) 教職員・保護者の防災・減災についての意識が高まった。

避難訓練・防災意識を高める授業、調べ学習を指導することにより、災害時の対応、防災・減災に対する教職員の意識が高まった。防災体験活動の後、防災グッズを準備したり、避難所の確認をする家庭が増えた。

### 【 課 題 】

- (1) 生徒・職員・地域住民の防災意識をどのように維持していくか。

今回の取組を通して、防災・減災に対する意識・関心が生徒・保護者・地域住民の間で高まった。防災に関する授業、避難訓練等を引き続き実施し、防災意識の継続を図っていく必要がある。

- (2) 地域や関係諸機関と防災に係わるネットワークの構築を深める。

今回の成果を踏まえ、自助、共助、公助の精神のもと学校が中心となり、家庭・地域社会や関係諸機関と連携を深め、防災教育、防災事業を推進していくことができた。この成果を生かし、構築したネットワークが恒常的なものとなるように連携の継続をめざす。

- (3) 避難所の運営についての行政機関や地域と学校との役割を明確にする。

今回、地域住民や行政機関と連携して避難訓練を行った。避難方法等については、共通理解ができたが、避難所運営等については検討課題も多く、今後とも三者の共通理解を進める。

## 7 事業の成果を活用した今後の取組の見通し

### (1) 津波を想定した避難訓練の継続

今年度、初めて津波を想定した避難訓練を実施したが、様々な課題が見えてきた。課題に対応し、実情にあった防災計画を検討する必要がある。その計画に沿って避難訓練や防災訓練を実施し、マニュアルを含めた見直しを検討していく。



<長浦小学校まで避難する生徒>

### (2) 「命の大切さを考える」防災教育を組織的、計画的に行う。

生徒の防災意識を高めていくには、実施した防災教育の授業や調べ学習を継続し、学級活動や道徳を中心とした学習内容、指導法を検討し、生徒の実態に応じた教材の開発を進めることが必要である。学校の全体計画に防災教育を組み込み、組織的・計画的に進めていく。

### (3) 合同避難訓練・避難所設営訓練を定期的に行う。

合同避難訓練・避難所設営訓練を地域や行政機関との協力を得ながら、計画的に行い、自助・共助・公助の精神を核として中

学生の役割を認識させ、継承していく。



<合同避難訓練>